



# 園だより

みなづき  
6月(水無月)号

令和8年5月29日  
千代田区立お茶の水幼稚園  
園長 伊藤栄司

<http://www.schoolweb.ne.jp/chiyoda/ochanomizu-k>



## 試し行動

園長 伊藤栄司

6月に入り、いよいよ水遊びの季節がやってきました。本園では、水鉄砲やおもちゃを使って楽しめるビニールプールに加え、小学生も使う可動式の床を備えた25mプールも活用し水に親しむ保育を行っています。毎年、子どもたちは水の感触や開放感を味わいながら、笑顔いっぱい遊ぶ姿を見せてくれます。水着の準備等よろしくお祈りします。

### 試し行動

幼稚園にも慣れ、友だちとも仲良く遊べるようになってきたこの時期、試し行動が見られることがあります。勝手に前に出てきてしまったり、皆と反対のことを言ったりする行動です。時には、わざとやっているように見えることもあり、「どうして言うことを聞かないのだろう」「わざと困らせているのではないか」と思ってしまいがちです。

担任の先生は、それまでの気持ちの変化もよく見ているので上手に声をかけ、お友達につなげてあげたり次の行動につなげたりして感心します。一見、皆と一緒に楽しく行動しているように見えても、一人一人の思いは違うこともあると気づきます。

### 気になる大人の反応

このように、子どもがわざと望ましくない行動をとり、大人の反応を確かめる様子を「試し行動」と言います。これは「どこまでしてよいのか」「先生は自分を受け入れてくれるのか」といったことを確かめるためのもので、成長の過程で見られる自然な姿です。言い換えれば、「先生と安心して関わりたい」「自分を見てほしい」という気持ちの表れです。

例えば、担任の先生が見ている前でわざと物を落としたり、大きな声を出してみたり、呼ばれてもすぐに返事をしなかったりする姿を指します。また、注意されると分かっているが、あえて約束を守らないこともあります。こうした行動は、「自分に関心を向けてほしい」「先生はどう対応するのだろうか」といった気持ちのサインと考えられます。試し行動が見られた時、「よくない行動=悪」と決めつけ強く叱ってしまうともっと注意を引こうとして、さらに変わった行動を起こすことが少なくありません。

### 背景を読み取る力

試し行動は特別な問題ではなく、子どもが人との関係を学んでいく上での大切な通過点です。環境の変化や不安感などを背景に見られることもあり、信頼関係を築こうとする姿とも言えます。先生方は、単に注意して終わらせるのではなく、「なぜその行動をしたのか」と気持ちに目を向けながら関わっています。例えば、わざと立ち歩いたり気を引こうとしたりする場合でも「先生はここで見ていますよ」「大丈夫ですよ」と目くばせをしたり頷いたりしながら安心できる関わりを大切にしています。同時に、守るべき約束や集団生活のルールについても優しく丁寧に伝えていきます。

先日も職員室で「あの行動はどういう意味があったのか?」「上手く導いてあげられたか?」と悩んでいる先生を見かけました。大切なのは、「受け止めること」と「やっていいことといけない事の境界を示すこと」の両方です。子どもは、自分の思いを受け入れてもらいながらも、安心できる環境の中で過ごすことで、少しずつ気持ちを整え社会性を身につけていきます。試し行動が見られるときこそ、担任との信頼関係を深める大切な機会でもあるのです。

### 受け止め次に繋げる力

ご家庭でも、同じような試し行動が見られた時は、「注目してほしいのかな」「安心したいのかな」と少し立ち止まって考えてみることをお勧めします。とりあえず叱る、もしくは褒める等、気持ちを考えずに行動すると、期待とは逆の反応を示すことになりがちです。「嫌だったね」「わかったよ」と共感を示しつつ、良くない行動は落ち着いて伝え「あなたのことを大切に思っているよ」とメッセージを言葉や関わりの中で届けてあげてください。子どもたちは、日々さまざまな形で大人に心を寄せ、関係を確かめながら成長しています。心に寄り添い、次につなげてあげる力を磨いていきましょう。